

# 萩 ネットワーク

第 59 号 2004 年 9 月

発行：萩ネットワーク協会

〒 758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

T E L 0838 - 25 - 3178 F A X 0838 - 26 - 5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

江戸時代、元禄のころ(1700) 3代藩主・毛利吉就よしなりは、山田原欣げんきん(学者)、安部春貞はるさだ(歌人)、雲谷等璠とうばん(画家)の3人を召喚して、萩の景勝地を8ヶ所選ぶように命じた。萩八景は、日本海や橋本橋、松本川の沿岸の情景をおりませ、山紫水明の地をアピールしたものだ。単に場所だけでなく、季節や時間帯や天候にも変化をつけている。

八景とは、「倉江の秋月」「桜江の暮雪」「小松江の晚鐘」「上津江の晴嵐」「中津江の夜雨」「下津江の落雁」「鶴江の夕照」。当時と同じように親しまれているのは、江戸時代の町並みが残る萩ならではの。

歴代藩主(初代・秀就ひでなりと偶数代)の墓が並ぶ毛利家菩提寺の大照院ではお盆に送り火(万灯会)が毎年行われる。送り火の東光寺(奇数代の藩主の墓)と共に万灯会は逝く夏の風物詩となっている。

## 萩八景

### 大照院・万灯会



9・10月のイベント	P2
開府400年記念事業、「明倫館南門」復原整備	P3
関西の萩④ 山田顕義と生野(一坂太郎)	P4
ズームアップ【田北淳】	P5
インタビュー【三好健二】、【赤木新吉】	P6
観光遊覧船スタート、萩城郭保存会	P7
旬の味便り「ヒラマサ」	P7
高橋公一氏・北村知紀氏・坂高麗左衛門氏ご逝去	P8
同窓会だより、メールボックス(会員だより)	P9

## 目次

市町村合併の動き、萩国際大学	P10
復活!萩の映画館、まあーるバス	P10
阿武教子金メダル、三輪壽雪氏受賞	P11
お店紹介「とよの庵」	P11
夢追人【松尾瑞恵】	P12
金子信彦氏受賞、則松淑子著書	P13
美術館だより	P13
情報アラカルト	P14、15
水辺からみた城下町・萩②萩湾周辺編(中澤さかな)	P16

萩往還を歩こう!

萩・山口歴史ウォーク

とき 9月11日(土)・12日(日)  
午前7時30分  
萩市から防府市三田尻までの萩往還を2日間かけて歩きます。萩市内や山口市内を散策するファミリー向けのコースもあります。

主会場 1日目：萩城跡指月公園、2日目：山口市亀山公園  
参加資格 体調が良く健康な方(小学生未満は保護者同伴)  
参加料 大人1800円(当日申し込みは2000円)、小・中学生500円

※1日参加の場合も同額です。問い合わせ 萩市企画課 (0838・25・2260)

萩・田町

秋の萩焼まつり

とき 10月8日(金)・11日(祝)  
午前9時30分〜午後5時30分  
ところ 田町商店街

内容 萩焼の即売(萩焼業者31社出店)、萩焼展示「和の器展」、萩・阿武の特産品販売  
問い合わせ 萩商工会議所 (0838・25・3333)

北浦最大の魚イベント

萩・魚まつり

とき 10月10日(日) 午前9時

ところ 萩しーまーと・山口はぎ水産物卸売市場周辺



志

萩博物館

平成16年11月11日(木)開館



〒758-0057 山口県萩市大字城内355番地  
TEL 0838-25-6447/FAX 0838-25-3147  
email:muse@city.hagi.yamaguchi.jp

内容 新鮮な魚介類の販売

萩のブランド魚(瀬付きアジ・甘ダイ、剣先イカ)の無料試食コーナー、魚のつかみどりほか  
問い合わせ 萩市水産課 (0838・25・2230)

幽玄の世界へ

萩薪能

とき 10月16日(土) 午後4時30分(雨天中止)

ところ 萩城跡指月公園  
演目 巴(貴多流・友枝昭世)

観賞料 無料(別途指月公園入園料が必要)  
問い合わせ 萩市観光課 (0838・25・3139)

毛利輝元公

銅像除幕式

とき 11月10日(土) 午前11時  
ところ 指月公園

萩博物館開館

とき 11月11日(木)  
開館時間 午前9時〜午後5時  
休館日 なし  
入館料 大人500円、高・大学生300円、小・中学生100円  
常設展示

●高杉晋作の遺品展示 晋作の愛用した道中三味線、書簡や日記、産衣、奇兵隊軍旗など晋作ゆかりの資料を展示(毎月展示替え)

●展劇(展示と映像の複合演劇)  
維新の先達吉田松陰を主テーマに資料・映像・音響を駆使して、大画面で、ダイナミックに紹介

萩博物館開館記念特別展

「毛利輝元と萩開府」

とき 11月11日(木)〜12月10日(金) 午前9時〜午後5時  
ところ 萩博物館

内容 毛利輝元の事績とその人となりを、関係資料や遺品・遺品を通して紹介  
問い合わせ 萩博物館 (0838・25・6447)

時代絵巻

「萩時代大パレード」

とき 11月14日(日)  
ところ 指月公園、萩市役所、金谷神社ほか

内容 諸藩大名行列、県内外奴行列を招待し、平安古備組、古萩町大名行列等と時代絵巻を繰り広げます。  
問い合わせ 萩市観光課 (0838・25・3139)

「萩の竹ブランド」推進イベント

●全国竹とんぼ競技山口大会  
N萩  
とき 10月3日(日) 午前9時〜午後3時  
ところ 萩ウェルネスパーク

●「竹が創る21世紀」イベント  
とき 11月17日(水)〜23日(祝)  
ところ 萩市民館

環境問題、デザイン分野の先進地フィンランドのデザイナーや大手繊維メーカー、大学等研究機関と協働し、竹ハウス設営、竹製インテリアの展示を行い、新たな竹の活用方を紹介  
オープニングイベント(11月17日(水) 午後4時)  
内容 フィンランドと国内デザイナーによる、竹繊維を素材として制作されたファッションのPR、竹楽器の演奏会、ダンスパフォーマンス

●全国竹の大会 山口県・萩大会  
(11月18日〜19日)  
特別記念講演(18日)、ヤングフォーラム(19日)

●竹meetsフィンランドデザイン  
とき 11月29日(月)〜12月26日(日)  
ところ 新宿パークタワー  
内容 竹のイルミネーション、竹ハウス・竹製インテリア展示  
問い合わせ 萩市商工会議所 (0838・25・3333)



11月5日完成

毛利藩の代表的な鋳物師である郡司氏の大砲鋳造所遺構を移築、復元し、公開します。幕末期の大砲・砲弾等兵器の鋳造技術を知ることができます。

(萩市松陰神社前)

## 郡司鋳造所遺構広場整備

新スポット誕生

記念事業として、文化財施設を整備します！



10月30日一般公開

国指定史跡「萩城下町」内(萩市呉服町)に位置し、菊屋家住宅と向かい合っています。藩政時代、呉服商から酒造業に転じ、明治時代は来萩した名士の宿所でもあった。主屋、離れ屋敷、土蔵、表門・堀の4棟から成る江戸時代後期の建物。

■高島北海とエミールガレのジャポニズム展  
～フランス19世紀末(アールヌーヴォー)の夢～  
とき 10月30日(土)～11月30日(火)

## 旧久保田家住宅

(萩城城下町)



11月9日完成

藩政時代、城下から三の丸(堀内)に入る3か所の門(大手3つの門)のうち、高さ約7mの日本最大級の高麗門である「北の総門」を復原整備。明治4年の解体以来約130年振りによみがえります。

(萩城堀内外堀)

## 外堀・北の総門復元

完成イメージ図



11月6日完成

## 旧萩藩校明倫館遺構南門移築

旧萩藩校明倫館の南門は、嘉永2年(1849)に明倫館の正門として建てられたもので、明倫館全体から見ると南にあたるので南門と名付けられました。通称は表御門と呼ばれていました。形式は切妻造、本瓦葺の四脚門で、藩主が聖廟を拝する春秋の孔子祭や公式行事以外は扉を開くことはありませんでした。

明治15年(1882)に、西田町の本願寺山口別院秋分院の表門として移築され、昨年2月に本願寺山口別院から寄付を受けました。

これを機に、萩市では移築事業に着手し、122年ぶりに建築当初の位置に復原します。昨年12月から西田町の南門の解体をはじめ、3月までにすべての部材を解体、6月からは組立工事と併せて明倫館碑の移設も進めています。屋根小屋組を組み立て、8月から本瓦を葺き始め、11月6日の門本体の完成を目指しています。

1補助。なお、土堀や井戸屋の周辺整備は、来年10月まで行う予定です。事業期間は平成15年度～17年度。総事業費は約1億円で国が2分の

板臺股 (鳳凰の彫刻)



東妻の板臺股彫刻は、奈良法隆寺法物の螺鈿唐櫃の円紋から做ったとされる鳳凰の彫刻が施されています。

# 関西の萩④

## 失意の墓参後 謎の死

### 山田顕義と生野



「真相知る銀山今は閉山」



写真

(上) 山田顕義

(左上) 山田顕義の業績を称えて、旧宅跡に造られた「顕義園」(萩市中ノ倉)

(左下) 日本大学が創立100周年を記念して建てた「山田顕義終焉之地」(兵庫県生野町)

文久3(1863)年10月、奇兵隊総督の河上弥市は数名の隊士とともに長州藩を脱し、現在の兵庫県朝来郡生野町で拳兵するも敗れて自決した。

時が流れて明治25(1892)年、河上の1歳年少の従弟で、明治の元勳となった山田顕義が、生野を訪れている。山田は長州藩士の子として長州萩に生まれ、吉田松陰に師事し、討幕戦争で活躍。維新後は陸軍中将や伯爵に列せられ、初代司法大臣をつとめた。

その頃の山田は、失意の中にあった。提唱した法典の実施が遅れ、大津事件の後始末が思うようにならず、しかも病気がちだった。そこで司法大臣を辞し、同年10月からは山口県に帰省していたのだ。生野を訪れたのは、再び東京に戻る途中だった。

山田は11月10日朝、姫路から人力車で生野に赴き1泊。翌11日、河上の墓参を済ませ、生野銀山を視察した。ところが太盛三番坑の坑道入り口で突如倒れ、そのまま亡くなる。享年49歳。

山田の死には、いまでも謎がつきまとう。

肺炎や心臓麻痺といった病死説もある。が、生野では昔から坑道に転落したという事故死説が囁

かれている。皇室財産の銀山で、元勳が事故死ではよろしくないの、秘されたというのだ。

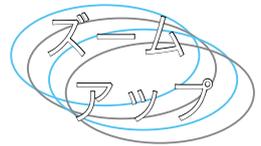
昭和63(1988)年、東京護国寺の山田墓所が発掘された際、頭蓋骨に大きな外傷が確認された。これは死亡当時、医師が作った記録にもない傷で、謎は深まるばかりだ。

山田の事跡の一つに、現在の日本大学の前身、日本法律学校の創立がある。後進の育成に心を砕いた一面は特筆されるべきだろう。日大では山田を学祖と仰ぎ、顕彰、研究活動も盛んだ。萩市の旧宅跡には銅像が建てられ、周囲は庭園化され、顕義園と名付けられている。

1人の長州人の死にまつわる謎を残しながら、生野銀山は昭和48(1973)年に閉山され、史跡は観光坑道として公開されている。その入り口に平成元(1989)年、日大が創立100周年を記念し「山田顕義終焉之地」の石碑を建てた。

(平成16年5月30日付朝日新聞山口県内版「関西の防長」より)  
萩市特別学芸員 一坂太郎

(菊川町在住)



船員保険福岡健康管理センター長

## 田北 淳

(福岡市在住、昭和28年秋高校卒、69歳)

萩のように歴史的な町のたたずまいと美しい自然が一体となっている素晴らしいところを、私は他に知りません。この景観は何よりも大切であると思います。



### 私の近況

平成12年に北九州市立戸畑病院を定年退職して、福岡健康管理センターに勤務しています。

当センターは、船員保険会が経営する全国4か所の健康管理センターの一つで、中国・四国の西半分と九州・沖縄を担当地域として、主に船員保険及び政管健保の加入者を対象にした生活習慣病健診を主な業務にしています。

船員保険加入者の健診を行う関係上、各地の漁港などにも健診車に乗って訪れます。萩や大井の漁港にも行きます。今は職務上センター内での健診を主に担当しています。

今も年に数回は萩に帰っていますが、堀内のあたりはあまり変わっていきなくて高校時代が懐かしく思い起こされます。

### 萩の思い出

大学入学のため18歳で萩を出ましたが、それまでは東田町で生まれ育ち、夏休みに県内の親類に遊

びに行くくらいで萩の外に出ることはほとんどなく、新しい生活に浮き立つ思いで萩を出たことでした。福岡市での生活が50年を過ぎましたが、年を重ねるごとに萩が懐かしく思われます。

高校では水泳部に入って、南校舎近くの橋本川で毎日泳いだことなどが思い出されます。運動音痴の私で泳ぎはものになりませんでした。同級の須子君や野中君の熱意に励まされてクラブ活動を楽しく送ることができました。今も元気で過ごせるのは、当時の水泳部のお蔭であります。

何時のころか、将来は医者になりたいと強く思うようになり、高校2年の3学期から、集中して勉強したことも思い出されます。今に至るまで、当時のように勉強した記憶はありません。勉強の習慣は、市中病院に出た後だんだん薄れましたが何とか維持することができて、今も無事に医者を続けていられる基になっています。

歳は70歳近くになりましたが、何事も行うにはその時であり、後まわしにしたことは結局何もできなかった、と反省することが多々あります。

### 萩への一言

萩のように歴史的な町のたたずまいと美しい自然が一体となっている素晴らしいところを、私は他に知りません。萩を訪れた友人誰もが褒めてくれます。

この景観は何よりも大切であると思います。

萩市は市民の皆さんのご努力で全国に知られました。萩市や関連のホームページを時々みていますが、萩の現状や観光情報がわかりやすく掲載されています。

萩は市域が広域となるようですが、歴史を大切にしたい観光都市に加えて、恵まれた自然環境を生かした住みよい街をつくっていただきたいと思っています。

■プロフィール 昭和28年秋高第5期卒、34年九大医学部医学科卒、39年同大学院博士課程修了(医学博士)、九大医学部第一内科講師、浜の町病院内科部長、北九州市立戸畑病院長、平成12年定年退職、14年船員保険福岡健康管理センター長就任。

# お 帰 り な さ い

昨年、故郷「萩」に戻られた方の中から、首都圏からUターンされた三好健二さんお聞きしました。



## 三好健二氏

(萩高校13期  
萩市土原在住 62歳)

自分の知識経験を、萩の観光振興に活かしたい

### 企画開発・マーケティングの分野で38年間

萩で生まれ幼少の頃は父親の仕事の関係で宇部や小郡などで過ごし、中2の時に萩に転入、萩高校を経て、山口大(経済)に進学しました。昭和40年にモーターなど重電機メーカーの安川電機に入社、主に企画・調査畑で8年勤務。安川電機も当時、主力のモーターの業績に陰りが見え始め、今でいう社内ベンチャーの子会社(株)ワイ・イー・データの設立に参画。昭和48年からは、そちらへ転籍しました。主にフロッピーディスクドライブ(FDD)等のコンピュータ周辺機器を開発・製造・販売する会社で、スタート時は私を含めた9名の会社でしたが、設

立12年目に株式上場、従業員数も約600名、FDDの専門メーカーとして一時は30%の国内シェアを持つまでになりました。新規事業開発の担当で、FDDの次に来る次期主力商品の企画開発に取り組んできました。

最後の6年間は取締役として、データ復旧サービスの事業責任者として事業開発と販促に取り組みました。FDDなどのように目に見える製品ではなく、形の無いサービス商品で、「いかに顧客のニーズを汲み取り、顧客に満足してもらえるか」というサービスマーケティングの力量を試される仕事でした。自ら企画開発し、そのサービス商品を自ら売り込んでいく、思い入れのある商品だけに、充実感もひとしおでした。

萩に戻ったのは昨年の6月末38年ぶりの帰郷。ずっと東京ではマンション暮らしだったので、萩の家を建て替え、萩近辺の天然木材を使用した「終の棲家」に。念願のSOHO(ネットワーク接続環境のある自宅オフィス)を自営して、東京の顧問先のLANに直接アクセスし、萩にいなながらコンサルティングが可能なインフラを整えています。この5月から、自分の経験や知識を街づくりに活かしたいと考え、21はぎ市民会議に参加、副会長と観光部会長を兼任しています。観光の分野も、いわゆるモノを売る仕事ではなく、カタチの無いサービスを提供する仕事。これまで経験してきたサービスマーケティングの手法が必ず活かせると考えています。個人的には写真が趣味、特にネーチャーフォトの分野に関心があります。幸い萩広域地区には、素晴らしい自然が残っています。時間を見つけて「自然景観の再発見」にも取り組んでみたいと思います。

## 赤木新吉さんが「ニューエルダージチズン大賞」受賞!

読売新聞が主催する「ニューエルダージチズン大賞」に、萩市浜崎新町在住の赤木新吉さん(95歳)が選ばれました。同賞は、70歳以上で自立した人生を送る高齢者を表彰するもので、全国各地から11名の方が入選、その中でも最高賞の大賞を受賞。赤木さんは明治42年6月、萩生まれの95歳。

今から20年前、75歳の時に鮮魚関係の家業を長男に譲り、現役引退。自身の健康維持のため、菊ヶ浜の散歩を日課として始められました。散歩する内に、浜辺に打上げられたり、捨てられたりしたコ



▲ホームグラウンド 菊ヶ浜を清掃中の赤木さん

ミが目につき、いつの間にか、浜の散歩は、浜の清掃に方向転換。以来、現在までの20年間、萩を訪れる多くの観光客に、きれいな菊ヶ浜を見ていただきたいと、酷暑の夏も、雪降る冬も、強風の日以外は休むことなく、1日4〜5時間、1人黙々と海岸清掃を続けられました。

昨年10月には、この赤木さんの意志を、もっと多くの住民の手で引き継いでいこうとボランティア組織「菊ヶ浜を日本一美しくする会」が結成され、現在約100名のメンバーが活動。赤木さんは同会の顧問に就任、メンバーと一緒に汗を流しながら、大所高所からの指導を行なっておられる。地域の人々からも愛されるイキイキ新人、赤木さん、萩にまた1人、全国区の「偉人」が誕生しました。

# 水辺から萩城下を観る 萩再発見「観光遊覧船」スタート

水の都「萩」の景観を水辺から遊覧する「観光遊覧船」が、7月17日から運航開始。遊覧コースは指月小橋を始点に、お城の疎水を通り、常盤島経由で橋本川本流に入り、堀内伝建地区内・平安古伝建地区内の武家屋敷群を川から眺める約40分の往復ルート。天候の良い日には、指月山の銃眼土塀や萩城跡潮入門跡・白砂青松の菊ヶ浜を、海から眺めるルートもプラス。全国各地に遊覧船は数ありますが、川と海の両方にコース設定したのは萩が初めて。

運航期間は毎年3月〜11月、期間内の土日祝日は午前9時〜午後5時の定期運航、平日は予約運航。運航する船は、定員12名の屋形付きの動力和船。乗船料は大人1200円/子供600円。土日は5隻の船がフル稼働する人気ぶり。萩の新しい観光スタイルとして、定着しそうです。

ヨットレースと砂の芸術祭が行われた7月25日、家族4人で遊覧船に乗船された大谷さん(防府市)に感想をお聞きしたところ、「普段の忙しい生活を忘れ、ゆったり

# 萩城郭を住民の手できれいに 「萩城郭保存会」7月17日始動!!

萩城跡周辺の石垣や土塀など城郭に残る遺構を、住民が力を合わせて手入れしていくことと、「萩城郭保存会」が7月17日に結成され、7月24日の早朝から第一回の作業がスタートしました。会のメンバーは堀内地区を中心に浜崎・江向・平安古などの住民有志約20数名。会長は、堀内町内会長の藤原良治氏。第一回の作業は、萩城郭の銃眼土塀・潮入御門周辺の雑草除去。萩城跡の売り物のひとつ、銃眼土塀は、鬱蒼と茂る雑草でその銃眼部分が覆われており、7月17日か

ら運航開始した萩八景遊覧船の運航コースから見えない状況。早朝から約2時間の作業で、かつて菊ヶ浜方向に睨みを効かせた銃眼がきれいに出現しました。

当日、作業の全体を指揮し、自らも雑草除去に汗された藤原会長は、次のようにコメントされました。「暑い中、早朝からみんな頑張ってくれてうれしく思います。この城郭は萩の町の始まりの地。城内や市内伝建築などは、従前より修復整備されてきましたが、なぜか城周りの遺構はここ数年ほ



梯子を使って銃眼付近の雑草を除去

のんびりとした40分間、なかなか良かったです。水辺から観る萩の町も新鮮でしたし、海も青く透き通って、とってもきれいでした。海に続く水路には小魚などの生き物がたくさんいて、子供も大変喜んでいました。」とのこと。

●お問い合わせ  
(社) 萩市観光協会  
0838・25・1750 萩市観光課 0838・25・3139

★【プレゼント】  
観光遊覧船の乗船券を抽選で5名様にプレゼント。ご希望の方は、官製はがきに住所・氏名・電話番号を明記の上、萩ネットワーク協会プレゼント係宛にご応募ください。締切は平成16年9月31日(消印有効)。

たらかし状態でした。それではあまりにもかわいそうということで、今回地域の住民に声をかけ会を結成してきれいにすることにしました。今日も2時間ほどの作業でしたが、皆が力を合わせることで、すっかりきれいになりました。今後は、月2回のペースで活動を継続し、もっともっと城郭をきれいにしていきます。」

## 萩発旬の味便り



▲ヤズ(ブリの50センチ級)  
刺身で6~7人前は十分とれる

### 縁起の良い出世魚

今回はヤズとメジ。どちらもブリの若魚で、ヤズが40〜50センチ級、メジは60〜70センチ級。ブリは古くから出世魚と呼ばれ、関東では、ワカシイナタ↓ワラサ↓ブリ、関西ではワカナ↓ツバス↓ハマチ↓メジロ↓ブリと、大きさによって呼び名が変わります。当地萩では、ワカナ↓ヤズ↓メジ↓ブリと呼ばれていました。大型のブリの旬は冬場ですが、ヤズ・メジは夏から秋が旬とされ、適度に脂の乗った身は、お刺身に最適です。萩沖では、主に定置網や刺し網・釣り漁で漁獲され、特にヤズ級の場合、比較的一度にたくさん獲れるため、価格も一匹1000円から1500円程度と、とってもお手頃です。



▲ヤズの水揚げ風景(萩の魚市場にて)

### お刺身が一番

然モノのヤズは、脂の乗りが適度で、食感もしっかり、全体的にはあっさりとした味覚です。養殖モノの場合、やはり脂がしつこい感で、身も柔らかく、天然モノと比べた場合、味はいは明らかに違います。また、鮮度劣化も養殖モノの場合は早く、その点でも天然モノのほうが食材として優れていると言えます。

お勧め料理は、やはりお刺身。厚めに切った平造りがポピュラーですが、薄く切ったそぎ造りも食べやすく人気があります。残った中骨などのアラは、潮汁か味噌汁のネタにすると最高で、1匹丸ごと無駄なく味わい尽くすことができます。大型のメジ級になると、脂の乗りも良く、照り焼きやカマの部分の塩焼きなど、ブリに遜色ない味を楽しむ事が出来ます。冬場の寒ブリは、価格的にも高くなかなか手がませんが、ヤズ・メジは、その味の實力の割には安く、庶民的なお魚の代表格といえるでしょう。

### 養殖ハマチとは、似て非なる味

ブリは養殖も盛んで、都市部では一般にハマチの呼び名で親しまれています。ちょうどヤズの大きさの養殖ブリをハマチと呼んでいますが、同じブリの若魚でも、天

本紙に平成13年1月から連載が始まった「萩400年の物語」(昨年8月から入院のため15年9月に中断)の筆者である郷土史家の北村知紀さんが7月27日肺がんのため亡くなった。64歳でした。



北村さんは、地元萩高校を卒業後、早稲田大学文学部から毎日新聞社に入社。大阪本社の編集委員を経て32年間の新聞記者生活の後、平成8年に萩にUターン。生来の歴史好きが高じて、郷土史家

として活躍の傍ら、萩ネットワーク紙には平成10年の3月から「維新の長州―主役の背景」、吉田松陰と毛利敬親、「情ある人品 川弥二郎小伝」と連載を執筆いただきました。今年の萩開府400年

### 「萩400年の物語」筆者

## 北村知紀氏

の完成を目指し、「萩400年の物語」を平成13年から始め、読者の皆さんからも高い支持を得ていました。

生前から「世に問える本を出したい」と言われておりましたが、この連載の14回分をまとめシリーズ萩ものがたり「萩開府」と題して、この10月1日に出版されます。ネットワーク協会会長の野村萩

市長は次のように追悼されました。「かつて田中助一氏や松本二郎氏など錚々たる全国に通用する萩の郷土史家が亡くなって相当の時間が経つなかで、先達に匹敵する郷土史家として期待されていた矢先に道半ばで逝去されたことは、

残念至極である。維新の志士たちの業績や史料をともしれば一言一句大事にしていくという郷土史家の伝統とは異なり、日本の近代史という広い歴史的視野から萩の歴史を理解しようとした手法、またマスコミ人として鍛え抜かれた、短文で簡明にして要点をついた文章力は、在来の郷土史家にはない素晴らしい歴史の紹介力であった。」



### 『幻の東京五輪』代表

## 高橋公一氏

萩市出身で陸上の棒高跳び選手として活躍し、日本のスポーツ振興に努めた愛知陸上競技会会長の高橋公一氏が8月8日、肺炎のため亡くなりました。(享年86歳) 萩商業から早稲田大学へ進学され、1940年(昭和15年)、日本選手権で4m15の大会新記録で優勝し、この年戦争のため中止された『幻の東京五輪』の代表になるはずでした。戦後は舞台裏から陸上を支え、1964年の東京五

輪では棒高跳びの審判主任を務めました。また、今では早春の風物誌となった名古屋国際女子マラソンや、1994年の愛知国体「わかしやち国体」の開催などに貢献しました。1995年に、中日新聞社がアマチュアスポーツ振興のために制定した中日体育賞の特別賞を受賞した時には、本誌第3号の「ズームアップ」にも掲載させていただきました。

謹んで、ご冥福をお祈りします。

萩焼の宗家として約400年続いてきた「坂家」の十二代目当主、坂高麗左衛門(本名・坂達雄)さんが7月26日、脳挫傷のため萩市の病院で亡くなった。54歳だった。

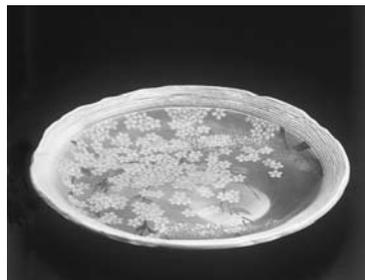


## 萩焼坂家十二代 坂高麗左衛門氏

坂さんは東京都出身。78年に東京芸術大学大学院絵画科を修了。82年に十一代目の娘、素子さんと結婚。坂家の養子となった。結婚を機に作陶をはじめ、88年に十二代目坂高麗左衛門を襲名した。

日本画家であった坂さんは大学院卒業後、平安時代の仏画の模写や、国宝の仏像の復元にたずさわってきた。こうした絵画経験が陶芸に取り入れ、萩焼には珍しい絵付けの技法を用いて、花鳥風月の

世界を作品の上に表現してきた。宗家として陶芸の技術を学ぶ一方で、伝統的な世界に新風を吹き込んでいった。02年には最愛の妻、素子さんを亡くし(享年53歳)、失意から一時制作から離れる。03年はじめに制作を再開。9月には素子さんの一周忌にあわせ、山口県内で初め



▲陶彩華枝垂桜図櫛目皿

ての個展「素子に捧げるレクイエム」を萩で開いた。その後も個展を精力的に行っていた。萩陶芸家協会会長の十二代三輪休雪さんは「坂くんは、萩には全くなかった絵画(日本画)を焼き物に定着させ、今やほぼ完成の域に達していた。萩の焼き物の歴史の1ページを記したことはまちがいない。坂家にとっても十分使命を果たしたが、ただあまりにも早すぎる死だった」とコメントした。

8月8日  
萩高校同窓会

萩高校体育館（萩市）

当日は、話題の吹奏楽団サマーオレンジズによる演奏と恒例の福引大会が行われ、福引の抽選会には色とりどりのコスチュームに身を包んだ「抽選戦隊引くんジャー」が登場し、色々な意味で会場の注目を集めていました。今年の引受は私達第41期（平成元年卒）卒業生が担当しました。準備等で色々苦労もありましたが、在校時から個性が強い割にいざと

55回目を迎えた今年の萩高同窓会のテーマは「前へGO!GO!」。混沌とした社会情勢の中で、前へ一歩踏み出す勇氣と力強さをイメージしたこのテーマの看板が見守る同高体育館で今年も盛大に行われました。



第41期が作成した総会冊子

めーるぼっくす

ネットワーク会員からのご感想、ご意見を紹介しています。

皆さんでこのコーナーをつくりませんか？  
お便りお待ちしております。

■先日、「ほたるの星」を見ました。明倫の校舎や運動場がずいぶん長時間写っていて、とてもうれしく感激しました。今夏も帰って、萩の町並をゆっくり見て歩きたいと思っています。「幼き日 ともに過ごせし学び舎に ほぼ濡らしつつ 見るスクリーン」

（埼玉県 林賢治）

■毎回、萩ネットワークを楽しく拝見しています。間もなく8月の花火大会ですね。去年は松陰の丘から見物しました。目の前の大きさや歓声にお祭り気分になり、充分楽しめました。今年は行けるかどうか分かりません。それから、歴史の都としての萩は奥知れぬ深さを持っていますね。今まではつまみ食いでしたが、今後はできればテーマを決めて訪萩したいと思います。

（兵庫県 澤辰美）

7月10日  
たちばな会からたち会広島支部総会

ホテルセンチュリー広島21（広島市）

50人出席。たちばな会15人、からたち会30人。三菱重工広島製作所に今年就職した卒業生を含め3人が出席。現在の生徒数は、工業・商業とも1学年の定員は105人で3クラス、全校で315人。からたち会事務局は土佐岡文夫（昭和43年電気科卒）082・288・3533（ワールド電商）。たちばな会事務局は内海公夫（昭和47年卒）082・230・2203（前田建設工業）



7月11日  
九州指月会総会

平和楼（福岡市）

34人出席。現在、各地の指月会（萩高校同窓会）総会の大体の出席者は、東京約200人、大阪100人、九州・名古屋は約30人。現在の生徒数は1学年200人、3学年で600人。事務局は井上秀夫（昭和32年卒）092・596・6809



7月24日  
からたち会九州支部総会

ステーションホテル小倉（北九州市）

23人出席。東陶機器から7人出席。前からたち会本部会長の児玉明さんも出席。出席者全員が自己紹介。事務局は内田龍夫（昭和48年土木卒）092・412・3742（ウチダ調査設計）



8月10日  
萩光塩学院同窓会

萩光塩学院体育館（萩市）

100人出席。総会では廣澤洋子会長、佐藤和子校長の挨拶に続き、平成15年度事業報告などがありました。卒業生、在校生が在籍している萩松陰隊による「よさこい」の踊りの後、懇親会が始まり、じゃんけんゲームやビンゴゲームなどが行われ、会場は盛り上がりました。事務局は0838・220782



## 市町村合併の動き

# 7市町村長が合併協定調印、 県知事に合併申請書を提出

萩市と川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の1市2町4村の合併協定調印式が7月9日、萩市農協会館で行われ、7市町村長が合併協定書に署名・押印、特別立会人として二井県知事が署名しました。

県内の市町村合併状況は、昨年4月に周南市が誕生、合併調印は大島郡、宇部市と楠町、長門市と大津郡、光市と大和町に次いで6番目。  
7月14日、15日には7市町村議会で、廃置分合等の合併関連議案が可決され、7月20

日には県知事への合併申請書を提出しました。

今後は、県9月議会での議決、県知事の合併決定処分を経て、県から総務大臣へ届出がされ、官報で7市町村の合併が告示される予定です。来年3月6日には、新しい「萩市」が誕生します。

新しい「萩市」は人口約6万1000人。面積は約700万㎡で県土の11%を占める。議員は在任特例で95人が平成18年4月末まで務めま

## 萩国際大学 理事長交代



安部一成新理事長

萩国際大学を運営する学校法人萩学園の刀祢勇理事長が辞意を表明、8月9日の理事会で、安部一成氏（77歳）が新理事長に、社会福祉法人るりがくえん（山口市）の村上修好園長（76歳）が理事に就任しました。

安部氏は下関市出身。山口大学経済学部教授、同学部長、東亜大学学長などを歴任し、現在、山口大学名誉教授で、山口老年総合研究所所長。会見では、「山口大学経済学部に来春新設される観光政策学科と連携するなど、大学の新しい方向性を探りたい」と抱負を述べました。

## 復活！萩の映画館



新生「ツインシネマ」(萩市吉田町)

北浦唯一の映画館であった「ツインシネマ」が5月9日、経営が苦しくなったため閉館しました。

しかし、萩に映画の灯を再びと、47人の有志が集まり、特定非営利活動法人（NPO申請中）「萩コミュニティシネマ」を設立、8月7日から新生「萩ツインシネマ」で映画上映をスタートさせました。

萩コミュニティシネマは支えてくれる会員千人を募っています。個人・団体を問わず誰でも会員になれます。理事長の高雄一寿さん（萩市の歯科医師）は「千人の支えがあれば何とかなる。市民参加型の映画館を作るためにも、ぜひ協力を。」と呼びかけています。  
入会金 1000円  
年会費 9000円（招待券年7枚贈呈）  
問い合わせ 萩コミュニティシネマ（08338・26・6705）

まあーるバス  
利用客数 100万人突破!!



平成12年4月に運行開始した「萩循環まあーるバス」の利用客数が4月で100万人を超えました。1便当りの平均乗車人数は14.7人で、目標の8.1人を大きく上回っています。

開業当時、国産車では初めて小型（定員35人）低床（路面からの高さ30cm）のノンステップ型バスを導入し、現在では同型バスが全国各地で活躍しています。

## 名古屋、東京・山手線で萩をPR

■名古屋  
名古屋市内で山口県観光バスが7月から年末まで運行します（市内の路線バス1台）。

車体の右側面に「萩市の菊屋横丁（萩開府400年）」、左側面に架け替えを終えた岩国市の錦帯橋をデザイン（写真）。

■東京  
首都圏でもJR山手線に観光PR列車が運行します。萩市を始め山口県内の観光地をデザインしたPR車両（2編成）が9月末〜10月末（1か月）と、萩開府400年と錦帯橋をテーマ（全車両に車内広告）にしたPR車両（1編成）が10月上旬（2週間）。



## 阿武教子選手（福栄村出身）、

### 五輪柔道で悲願の金メダル

アテネオリンピック女子柔道78kg級で、3大会連続出場の阿武教子選手（28歳）が初優勝を果たし、悲願の金メダルを獲得しました。

阿武選手は世界選手権は



金メダルに沸く父靖さん（中央）、祖母フミ子さん（右下）

1997年から4連覇しているものの、五輪ではアトランタ、シドニーとも初戦で敗退。今大会では初戦の2回戦で一本勝ち。この五輪初勝利を契機に順調に勝ち進み、決勝は一本勝ちで、3度目の正直で金メダルを獲得しました。

地元・福栄村では道の駅「ハピネスふくえ」に設置された大型テレビの前に家族や村民ら約200人が集まり、温かい声援を送った。初戦、3回戦と勝ち進むごとに大きな歓声が上がリ、優勝が決まった瞬間には一斉に立ち上がって拍手し、「すごい」、「やったぞ」と沸き返った。

村民でつくる「阿武選手を励ます会」会長の末永昇村長は「今回はやってくれると確信していた。来年3月の市町村合併で村名がなくなるが、福栄村という村名が最後になる今年、素晴らしいこと。小さな村でも頑張れば金メダルがとれる。村民の大きな励みになった」と喜んだ。

翌20日には号外も配布され、人口2600人の小さな村は快挙に沸きました。



## 人間国宝 三輪壽雪さんが日本陶磁協会賞受賞

秋焼の重要無形文化財保持者（人間国宝）、三輪壽雪さんが日本陶磁協会から協会賞制定50年記念賞を受けました。

日本陶磁協会賞はその年の最も優秀な作家に対して「協会賞」が、また陶芸界に大きな足跡を残し、すでに協会賞を受けた作家に対して「金賞」が贈られる。今年が賞制定50周年の節目の年に当たり、

両賞に加えて特別賞が設けられ、94歳の今もなお衰えることを知らない作陶意欲と、その独創的で力強い造形作品が高く評価された。

8月12日の受賞報告会では「茶席に合うだけではなく、作品を手にした人が『よし、やるぞ』という気力をわきたたせてくれるような作品づくりを心がけている」と創作意欲を語った。

## ギャラリー紹介

### 切り絵のアトリエ

### とよの庵

切り絵作家である上田豊治さん（35歳）のアトリエ「とよの庵」が、4月にオープンした。

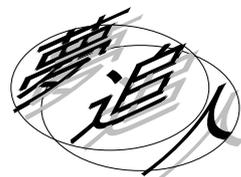
和風に統一された室内には作品がところせましと飾られ、入り口付近には豊治さんの作業机がある。別棟には今までの個展で展示された作品が置かれており、見学希望と伝えれば見せてもらえる。

豊治さんは3歳のときに自閉症と診断された。養護学校高等部3年のときに切り絵と出会い、1990年ごろから本格的に切り絵に取り組みはじめた。



1997年9月に東京の銀座三越で個展を開き、2002年10月にはカナダのトロントで展示を行うなど、活動の規模は順調に広がっている。

今年の秋には、取材旅行として福島県の会津地方を訪れる予定。「秋と関わりの深い会津。彼の切り絵が二つの都市の架け橋になってくれれば」と母親の幸子さん。開館日 毎週木・金・土曜日（土曜日は第1・3のみ）開館時間 午前10時〜午後5時 連絡先 萩市山田4131-6 (090・5265・7571)



宵待ちの宿「萩一輪」女将

松尾瑞恵氏(50歳)

(岡山県湯原町出身)

この4月、菊ヶ浜の「萩城観光ホテル」がリニューアルオープン、宿の名前も、宵待ちの宿「萩一輪」にリニューアルと同時に代表取締役役に就任、女将として着任された松尾さんにお話をお聞きしました。

従業員と一緒に汗する

「裏女将」

生まれは、岡山の湯原温泉です。地元の勝山高校商業科を卒業後、家業の「松乃家」に従事しました。父と母そして私のたった3人で切り盛りする小さな宿でした。とにかく人手がないので、お客様の送迎のため、私自身が大型免許を取得し、送迎バスの運転もしています。

した。

昭和57年11月に萩支店として、今の場所に萩城観光ホテルを開業。現会長の父親は島根県の出身ですが、以前から萩が大好きで、海に隣接し、城下町まで歩いてける、今の場所を大変気に入っていました。

父の体調の件もあり、この4月から私が代表取締役社長・兼女将として着任しました。湯原温泉の



▲宿のロビーで、大好きな花と一緒に。この数分前までは、作業しやすいパンツ姿。着替えの素早さに驚きました。

「松乃家」も掛け持ちですので、萩と湯原を行ったり来たり、萩に居るのはおおむね月の半分くらいです。もともと身体を動かすことが大好きで、社長・女将としての働きはもちろんです。接客係・雑役係として一人4役、従業員と一緒に汗を流す毎日です。従業員の誰よりも早く出勤し、そして最後の館内チェックと戸締りは自分がします。夜、寝室として使っている部屋は、宿の事務所隣にある2畳部屋、何かあった時にもすぐ対処できる状態にしています。

女将というと、きれいな着物を着て、自分は楽しんで、従業員が汚れ仕事に汗するといったイメージかもしれませんが、私の場合は、完全な「裏女将」です。

従業員が、イキイキと

楽しく働ける宿に

決して豪華でも立派でもない宿ですが、「癒し・やすらぎ・おもてなし」といったソフト面を重視したいと考えています。そのためには、従業員の気持ちの持ち方が大切。「給料もらうために仕方無しに働いている」といった気持ちは、必ずお客様に接する際の態度に出ます。従業員自身が、イキイキと楽しく働ける場所でないければ、お客様に「癒し・やすらぎ・おもてなし」を感じていただくことなんて不可能です。

宿での1日は非常にハードで体力も要るし、緊張感の連続で精神的に辛い状況になるときもあります。でも、お送り差し上げる時に、お客様から掛けて頂く「ほんとうにゆつくりできました。また来ます」この言葉こそが、宿で働く者たちへの、最高のお褒めの言葉なのです。そのことを、従業員に繰り返し話し、そして従業員と一緒にお客様のために汗を流す。リニューアルオープンから4か月、最初には精神的にも体力的にも、女将には付いて行く自信がない、とこぼしていた従業員もいましたが、一人もドロップアウトすることはありませんでした。

今では、みんな「働くことが楽しいと感じられるようになりまし」と笑顔で話してくれるようになりました。お客様にお書きいただく満足度アンケートも、当初1ヶ月は5段階の3(普通)でしたが、4ヶ月たった今ではほとんどの方が5段階の5(満足)、なかには「満足」の前に大きく「大」の字を書いてくださったお客様もおられ、従業員一同、大喜びしました。

萩を「思いやり」にあふれた町

好きな言葉は「思いやり」。従業員に対しても、お客様に対しても、そして出入りされる業者さん



▲ロビーからの眺め

に対しても、絶えず「相手はどう思うのだろうか」ということを意識して、対応するように心がけています。相手の立場に立つ、そして相手の望むことや気持ちを察知する、そしてそのことを理解した上でアクションを起こす、これが「思いやり」の全てだと思えます。萩に来て数ヶ月と、まだまだ日が浅いですが、この萩が「思いやり」にあふれた町となるように、微力ながら努力していきたいと思っています。

■プロフィール 昭和28年10月岡山県真庭郡湯原町生まれ。岡山県立勝山高校商業科卒。湯原温泉・旅館松乃家 代表取締役社長。宵待ちの宿「萩一輪」 代表取締役社長。

萩市三見出身の則松淑子さん



雨の日  
北京晴れ

作者の則松淑子（旧姓・大井）さんは萩市出身。その後山口市に移り、再び小学3年生から高校卒業までのあいだ萩に住んでいた。現在は福岡県在住。99年にこの「雨の日も北京晴れ」を自費出版し、同書で第3回日本自費出版文化賞を受賞。今年6月に、加筆訂正された同書が文芸社より刊行された。内容は、ご主人の中国留学についていくことになった家族5人の滞在記。幼い3人姉妹を抱え見知らぬ土地で奮闘するお母さんの視点から、北京での1年間の生活が描かれる。洗濯物はほこりが多いので外では干さない。市場の買い物で

「ぼったくられない」ようにマイ天秤をもっていく人がいる。など、住んでみないとわからないエピソードが満載。  
「だまされたりもしたけど、お互いの関係を深めることによって状況が改善されていく。人種、国籍なんて『人間』の前では関係がない。そういうことを家族を通して書きたかったのかも知れませんね」と則松さんは語った。  
四六判/254ページ  
定価 1575円  
発行 文芸社



日本自費出版文化賞 受賞

金子信彦氏  
朝日陶芸展グランプリ受賞



城山窯にて

第42回朝日陶芸展（朝日新聞社主催）の入賞者が8月20日に発表され、萩市の陶芸家金子信彦さん（堀内・53歳）が、最高賞のグランプリを受賞しました。  
全国から581人、672点の応募があった中でこのグランプリ受賞でした。8月21日の朝日新聞朝刊（2面）「ひと」のコーナーでも紹介されました。  
金子さんの受賞作「天空の華」は、高さ10cm、直径94cm、皿状のオブジェです。この作品をはじめとした展覧会は9月2日から、名古屋、滋賀県信楽町、福井県宮崎村、愛知県高浜市、大阪府堺市、栃木県益子町を巡回します。

萩美術館・浦上記念館名誉館長の  
浦上敏朗さん  
新博物館に錦絵を寄贈



7月27日、萩市の名誉市民で、山口県立萩美術館・浦上記念館名誉館長の浦上敏朗さん（東京都渋谷区）が錦絵「西郷隆盛首実検之図」を萩市郷土博物館に寄贈しました。11月11日にオープンする萩博物館に展示されます。この錦絵は、西南戦争の一場面を描いたもので、萩出身で司法大臣となった山田顕義も登場しています。



開館時間 午前9時〜午後5時  
館日 月曜日  
入場料 一般700円、学生500円  
※11月1日〜7日までの教育文化週間は無料

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

「HANGGA  
東西交流の波」展

9月11日〜10月24日

日本における版画年を記念し、

版画をとおして東西文化の交流を振り返る展覧会です。ゴッホ、ゴーギャン、マネ、北斎、広重など、19世紀後半の印象派と浮世絵から現代にいたる版画作品200点を展示します。

萩開府400記念  
萩陶芸家協会展

一萩陶芸の現在一

10月30日〜11月28日

萩陶芸家協会の会員が、萩焼の伝統を受け継ぎながらも機能性の有無や「器」「オブジェ」といった形態の区分は問わず、陶芸的造形表現の新たな地平を拓こうとする意欲的な作品を展示します。

# 情報アラカルト

## 関東地区

- 柳井嗣雄展「デリダのねぐら」  
秋市出身、国立市在住の現代美術家・柳井嗣雄の個展です。同氏は、2002年に山口県立萩美術館・浦上記念館（萩市平安古）で、茶室「境界」関係の通路として」を展示されました。  
とき 9月20日（月）まで  
ところ 小平市たかの台44-19 松明堂ギャラリー
- 望雲 東京展「ヨウコン」  
大屋薫の濱中史郎、濱中孝子  
4年に1度の萩高等学校、萩商業高等学校、萩工業高等学校、萩光塩学院4校の合同同窓会が次のとおり開催されます。  
【東京】第2回萩4高校在京同窓会  
とき 10月16日（土）午後2時～4時30分  
ところ 東京都港区 日本工業倶楽部（JR東京駅丸の内北口）
- 【大阪】第5回萩同郷会  
とき 11月7日（日）正午～3時  
ところ 大阪市北区 大阪弥生会館（JR大阪駅北口）

の作品が展示されます。

- とき 9月18日（土）～24日（金）午後1時～8時  
ところ 世田谷区用賀4-9-7 アルイグスビル2F ギャラリーアルイグス
- おいでませ山口観光物産フェア  
観光PRコーナー、特産品コーナーなどが設けられます。  
とき 10月4日（月）正午～午後5時、5日（火）午前11時～午後5時  
ところ 千代田区大手町 東京サンケイビル1F メトロスクエアフラット
- 姉妹都市物産展  
秋市からは水産加工物、銘菓、地酒等を販売します。  
とき 10月8日（金）、9日（土）午前10時～午後5時（9日は4時まで）  
ところ 鎌倉市小町 鎌倉生涯学習センター（JR鎌倉駅東口徒歩3分）
- 萩・世田谷幕末維新祭り 萩観光物産展  
萩焼、地酒、地ビール、萩蒲鉾、海産物、夏みかん菓子等の販売と、陶芸教室が開催されます。  
とき 10月23日（土）、24日（日）

ところ 世田谷区松陰神社鳥居前（東急世田谷線・松陰神社前）

- 長州ウォーク イン東京  
旧長州藩の上屋敷があった日比谷公園から松陰神社まで、東京都内にある県ゆかりの地をスタンブラー形式で巡ります。  
とき 10月24日（日）午前9時～午後3時
- 第36回日展  
秋市の工芸作家・吉賀将夫が審査員として出品します。  
とき 11月2日（火）～24日（水）  
ところ 台東区上野公園 東京都美術館
- 兼田昌尚展  
萩焼作家・兼田昌尚の作品が展示されます。  
とき 11月12日（金）～23日（火）  
ところ 大田区田園調布 ギャラリー輝山
- 大萩焼展  
萩焼作家・三輪書雪、三輪休雪、野坂康起、波多野善蔵、岡田裕兼田三左衛門、兼田昌尚、三輪和彦らの作品が展示されます。  
とき 9月14日（火）～20日（月）  
ところ 三重県四日市市諏訪栄町 中部近鉄百貨店
- 明治維新防長殉難者顕彰会  
戊辰戦争の始まりとなった鳥羽・伏見の戦いで亡くなった長州

の若者、またそれ以前の禁門の変や池田屋事件で亡くなった若き志士たちの慰霊祭です。

- とき 10月24日（日）午前10時～（受付9時）  
ところ 京都市東山区 東福寺 退耕庵
- 中国地区  
■広島指月会  
広島指月会を次のとおり開催します。  
とき 9月18日（土）午後5時～  
ところ 広島市南区松原町 ホテルグランヴィア広島
- 岡田裕作陶展  
萩焼作家・岡田裕の作品が展示されます。  
とき 9月29日（水）～10月5日（火）  
ところ 岡山市本山 岡山高島屋
- 納富晋作陶展  
萩焼作家・納富晋の作品が展示されます。  
とき 10月28日（木）～11月3日（水）  
ところ 広島市中区 天満屋広島八丁堀店
- 九州地区  
■西日本陶磁器フェスタ「西日本陶芸作家展」  
萩焼作家・中村真一の作品が展示されます。

とき 9月22日（水）～26日（日）  
ところ 北九州市小倉北区 西日本総合展示場新館

- 山口指月会  
山口指月会を次のとおり開催します。  
とき 10月18日（月）午後6時30分～  
ところ 山口市 翠山荘
- 「天神様と高杉晋作」展  
幕末の志士・高杉晋作が結成した奇兵隊の心の支えは、「天神様」こと菅原道真公だったといわれる。その両者にスポットを当てた、「坂太郎氏（萩市特別学芸員）監修の企画展。  
晋作や吉田松陰の書簡、木戸孝允や山県有朋の詩書、伊藤博文建白書など約40点が並ぶ。  
とき 平成17年2月6日（日）まで  
ところ 防府市松崎町 防府天満宮歴史館 問い合わせ 防府天満宮歴史館（0835・233・6172）
- 萩市関係  
■ちばな会本部総会  
ちばな会本部総会を次のとおり開催します。  
とき 10月16日（土）午後6時30分～

## 新規加入会員ご紹介

有田吉郎さん (広島市)  
 中村憲博さん (広島市)  
 松浦好徒さん (福岡県前原市)  
 長富猛さん (北九州市)  
 青木元義さん (鎌倉市)  
 中尾清美さん (東京都小平市)  
 井町健さん (山口市)  
 新町長文さん (福岡県水巻町)  
 末岡稔弘さん (北九州市)  
 田中誠治さん (北九州市)  
 有田泰三さん (茨城県つくば市)  
 師範塾 (福岡市)  
 和田忠子さん (阿武町)  
 大中勇さん (萩市)  
 安藤雅章さん (萩市)  
 山本貞寿さん (萩市)  
 南崎信樹さん (萩市)  
 松本貴博さん (埼玉県入間市)  
 石関宏志さん (東京都杉並区)  
 田中真介さん (東京都武蔵野市)  
 佐伯浩さん (東京都板橋区)  
 益永榮次さん (東京都世田谷区)  
 藤井順貴さん (東京都立川市)  
 戸倉健夫さん (東京都練馬区)  
 大橋信さん (東京都世田谷区)  
 玉井徹夫さん (東京都世田谷区)  
 玉井真生さん (東京都北区)  
 玉井伸一郎さん (相模原市)  
 南憲明さん (川崎市)  
 菊池寛さん (横浜市)  
 (2004.6.26～8.24 加入者)

ところ 萩商業高校体育館  
 ■秋ものがたり出版記念講演会  
 とき 10月13日(水) 午後7時  
 ところ 萩市民館大ホール  
 講師 加藤周一(評論家)  
 演題 「吉田松陰と現代」  
 受講料 無料  
 問い合わせ 萩市役所広報課内萩ものがたり事務局 (0838・25・3233)  
 ■2004お月見コンサート「シユーベルtin秋」  
 毛利家の菩提寺・東光寺で野外コンサートが開催されます。  
 とき 9月19日(日) 午後7時～(開場6時)  
 ところ 萩市椿東 東光寺雄宝殿  
 入場料 2500円(飲み物付)  
 問い合わせ 萩市南片河町62 畔亭(0838・22・1755)  
 ■ヴィレッジのコンサート  
 スコット・ハミルトン(テナー・サクソスの名手)、ノーマン・シ

モンズ(ピアニスト)らのコンサートが開催されます。  
 とき 10月2日(土) 午後7時9時(2回公演)  
 ところ 萩市土原 喫茶ヴィレッジ  
 入場料 7500円  
 問い合わせ ヴィレッジ (0838・25・6596)  
 ■俣宿天十平の企画展  
 ●英国アンティーク家具&雑貨店  
 80年前のイギリスの家具と雑貨が海を越えてやってきます。  
 とき 10月1日(金)～12日(火)  
 問い合わせ 俣宿天十平 (0838・26・6474)

## 出版情報

■「昭和のすみっこストーリー」  
 中山邦夫著  
 萩市出身の著者(萩高第7期卒、広島市在住)が、普遍的な人間社会に必須の規範とはどんなものかを軽妙な筆致で心に問いかけてくるエッセイ集。  
 A6判/231ページ  
 定価 1470円  
 発行 文芸社  
 ■「吉田松陰」奈良本辰也著  
 吉田松陰の波乱に満ちた生涯、松陰をめぐる人々などの視点から、時代を超えた人間的魅力にふれ、現代の生き方を学ぶ。  
 B6判/341ページ  
 定価 1680円  
 発行 たちばな出版  
 ■「惑星が行く 久原房之助伝」  
 古川薫著  
 長州出身で日立製作所やジャパンエナジー(旧日本鋳業)につながる日立グループの礎を築き、転じて政治家として活躍した「惑星」こと久原房之助の生涯を、直木賞作家で下関市出身の著者が書いた渾身のノンフィクション。  
 B6判/397ページ  
 定価 2100円  
 発行 日経BP社

## テレビ情報

■「新時代を求めて〜日本・鉄道の父 井上勝の挑戦〜」  
 萩出身の鉄道の父・井上勝が残した功績に示唆を求めて、山口の足跡をたどります。  
 放映予定 9月20日(祝) 午後2時55分～3時50分  
 放送局 テレビ山口



歩く旅シリーズ町歩き  
 「まちじゅう博物館」  
**秋のまちを歩く**  
 「古地図で歩く」、「萩まちじゅう博物館案内」、「幕末の道・萩往還を歩く」を3大テーマに、吉田松陰ゆかりの地を訪ねる等々、萩の町を歴史・文化・自然のあらゆる角度から紹介する。また、伝統の萩焼や歴史の宿、名物の蒲鉾や地酒といった土産ものを網羅した新しいタイプの町歩き案内書。作家の高樹のぶ子、俳優の原田大二郎のエッセイを収録。11月開館を控えた萩博物館情報も必見。  
 A5判/144ページ  
 定価 1575円  
 発行 山と溪谷社

シリーズ「秋ものがたり」  
**第2回 10/1発行**  
 萩開府400年記念事業として、萩に残る後世に語り継ぐべき物語をシリーズとして出版。4月に発行した第1回「萩の椿」「高杉晋作」に続き10月1日(予定)に第2回2冊を発行します。  
 ■「萩開府」  
 毛利輝元の決断  
 北村知紀(郷土史家)著  
 萩ネットワークで連載され、読者に人気の高かった「萩400年の物語」がまとめられました。「萩築城は一門・家臣が負担する総力戦だった」「400年は水との闘いの歴史」など、読んで分かります。萩の再発見にもなる一冊です。600円(予価)  
 ■「萩まちじゅう博物館」  
 西山徳明(九州大学教授)著  
 市全体を屋根のない博物館と見なして、市民と行政が一体となった博物館活動を展開する「萩まちじゅう博物館」。都市計画を専門とする著者による萩への提言です。600円(予価)  
 ◆定期購読がお得です  
 年間4タイトルの販売価格合計約2400円程度のところを、年会費2000円で定期配本します。申し込みは萩市役所広報課内萩ものがたり事務局(0838・25・3233)まで

# 萩を水辺から観る

## その②【萩湾編】

阿武川河口の三角州に形成された萩城下町。西を橋本川、東を松本川、そして北を日本海、三方を水に囲まれた「水の都」ということもできます。これらの水辺には、かつての萩八景が点在し、風光明媚な表情を今なお残しています。

このシリーズでは「萩を水辺から見る」と題し、水辺から見た史都「萩」を紹介。今回は倉江海岸から菊ヶ浜・萩商港・萩漁港・萩マリーナと海岸沿いにシーカヤックを走らせました。写真・文：中澤さかな



①倉江海岸

▲城郭のある指月山から橋本川河口を渡って西側に位置する倉江海岸。きれいな水と白い砂そして複雑な形に侵食された岩で変化に富んだ海岸線を形成。漁船はウニ潜水漁を操業中。



②北から見た指月山

▲指月山を北側から見る。海からしか見ることで見えないアングルで、画面右側に奇岩が連なる。普段の陸から見る指月山とはちょっと表情が違います。



③東から見た指月山

▲指月山を菊ヶ浜沖から見る。長く続く城郭の石垣が見える。7月に就航した観光遊覧船からもこの風景を見ることができます（荒天時除く）。



④笠山付近

▲椿群生林のある笠山を望む。昔の菅笠を伏せたような形が笠山という名前の由来。左の小島が九島で、ウニ・サザエの漁場。その沖の平らな島は、無人島の羽島、ウサギが繁殖しています。



⑤萩商港付近

▲阿武川の分流「松本川」が日本海に注ぐ位置に萩商港があります。沖合いの離島を結ぶ定期便はこの商港から出発。大島航路の連絡船が着岸しています（画面右端）。



⑥萩漁港付近

▲8つの漁港に分散していた市場が統合されて、この漁港に集結。灯台の奥に見える建物が魚市場。市場の陰で海からは見えませんが、道の駅萩シーマートもこの場所にあります。



⑦マリーナ萩付近

▲湾の奥にある静かなマリーナ。海の町「萩」を象徴するゾーンで、敷地や建物・緑地も整備され、散策コースとしても楽しめるスポットです。